

目標の設定状況と進捗状況

1 小笠原諸島振興開発計画における目標人口及び成果目標 (H26～H30)

(1) 目標人口

人口は、将来的には約 3,000 人を想定し、平成 30 年度末では、平成 25 年度末の人口より増加していることを目標とする。

(2) 成果目標

指標	目標 (平成 30 年度)	参考値	
		参考値	参考値
農業生産額	1 億 3,170 万円	平成 20～24 年 (平均)	1 億 1,574 万円
漁獲量	510 t	平成 20～24 年 (平均)	504 t
年間入り込み客数 ^{※1}	32,900 人	平成 21～25 年度 (平均)	29,153 人
教育旅行者数	20 件 1,200 人	平成 25 年度 (実績)	17 件 1,179 人
リサイクル率 ^{※2}	50%	平成 24 年度 (実績)	34.4%
再生可能エネルギー 発電容量 ^{※3}	230kW	平成 25 年度末 (実績)	192.5kW
総所得金額	102 ^{※4}	平成 21～25 年度 (平均)	(59 億 9,200 万円)

※1 年間入り込み客数は、定期船おがさわら丸の乗船客のうち、島民を除き、観光や仕事・研究等での乗船者数及び定期船以外の観光客船（クルーズ船）の乗客数

※2 年間のごみの総処理量と集団回収量の合計に対する総資源化量の割合

※3 公共施設における再生可能エネルギー発電容量

※4 平成 21～25 年度までの平均総所得金額を 100 とした場合の指数

2 各目標の達成状況

※各目標の実績は最新の集計値である。

※実績の一部は平成 28 年の数値であるため、() 内で参考値として示す。

●人口

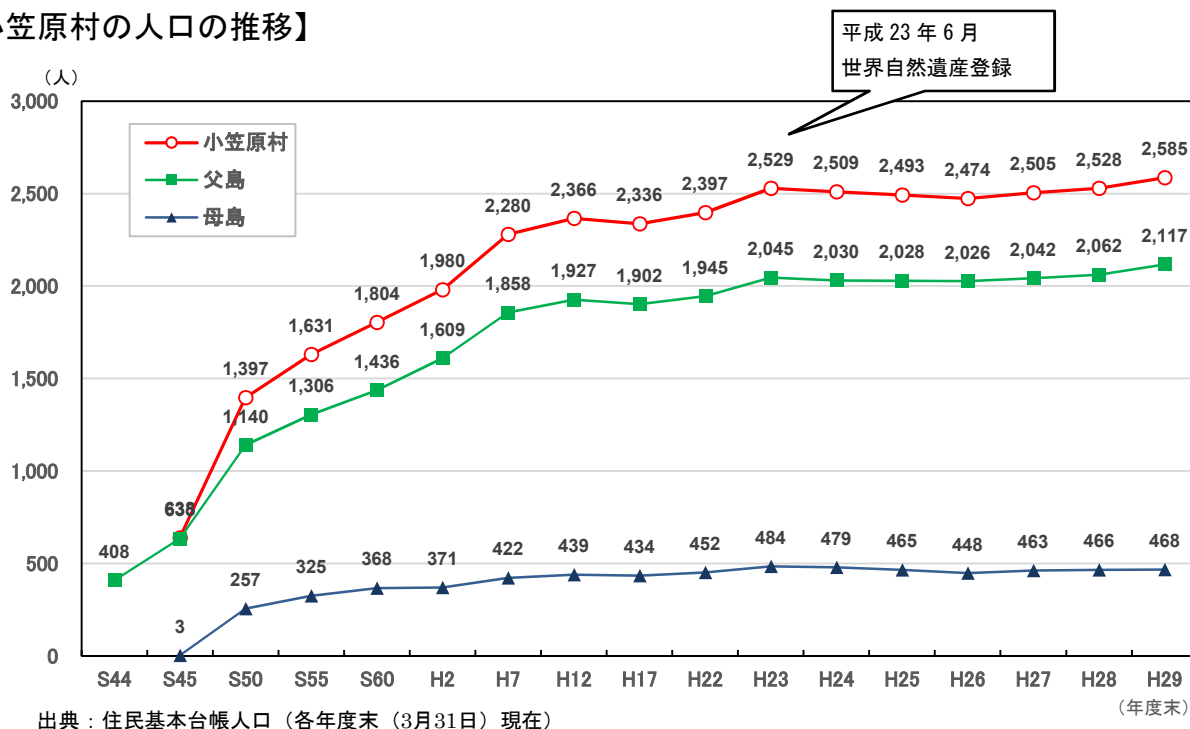
平成 29 年度実績	目標 (平成 30 年度)	参考
2,585 人	2,493 人以上	平成 25 年度末人口 2,493 人 より増加していることを目標とする。

出典：住民基本台帳人口（各年度末）

※外国人は含まない。

平成 30 年 3 月 31 日現在の小笠原村の住民基本台帳人口は、父島と母島で 2,585 人。その内訳は父島で 2,117 人、母島で 468 人となっている。

【小笠原村の人口の推移】



【人口の推移について】

- 日本復帰当初から平成 7 年度まで大幅に増加し、その後は、中長期的に微増傾向である。
- 出生率が全国平均に近い※一方で、死亡率は低いため自然増がある一方、島内で治療できない疾病や生活の不安等から本土に転出するなどによる社会減もある。
- ※ 平成 28 年出生率：6.9（全国平均：7.8）
- ※ 平成 28 年死亡率：3.3（全国平均：10.5）
- 小笠原村の人口は、年少人口と生産年齢人口の割合が高く、老年人口割合は低くなっており、高齢化は全国に比べ緩やかに進行している。

(参考) 年齢 3 区分別人口割合

(単位: %)

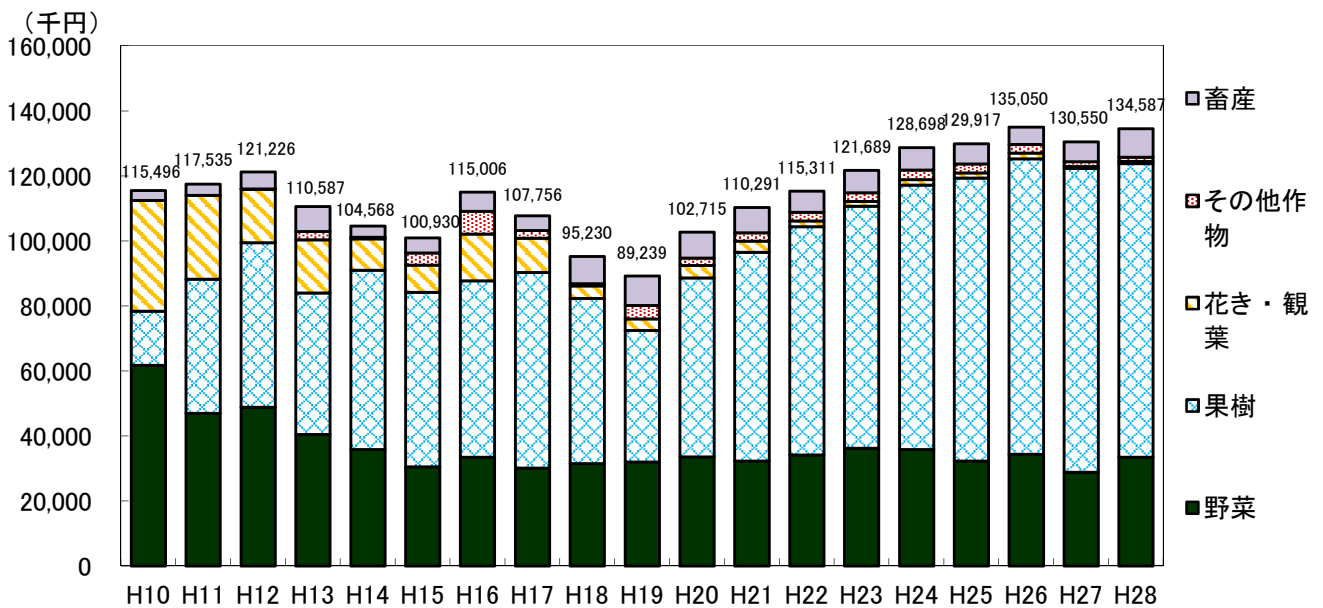
区分	年少人口 (0 歳～14 歳)	生産年齢人口 (15 歳～64 歳)	老年人口 (65 歳～)
小笠原村	17.04	67.85	15.11
全国	12.29	59.88	27.83

出典：住民基本台帳人口 (H30.1.1)

●農業生産額

平成 28 年実績	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 20～24 年平均)
(1 億 3,459 万円)	1 億 3,170 万円	1 億 1,574 万円

【小笠原諸島における農産物の種類別農業生産額の推移】



【農業生産額の推移について】

- 生産額の約 45%をパッションフルーツが占め、次いでトマト・ミニトマト、レモン、マンゴーで全体の約 70%を占めている。
- 近年はパッションフルーツを中心に果樹の生産額が好調に推移しており、平成 28 年実績は、参考値（平成 20 年～24 年平均）よりも高い状況であった。

《平成 29 年度の取組状況》

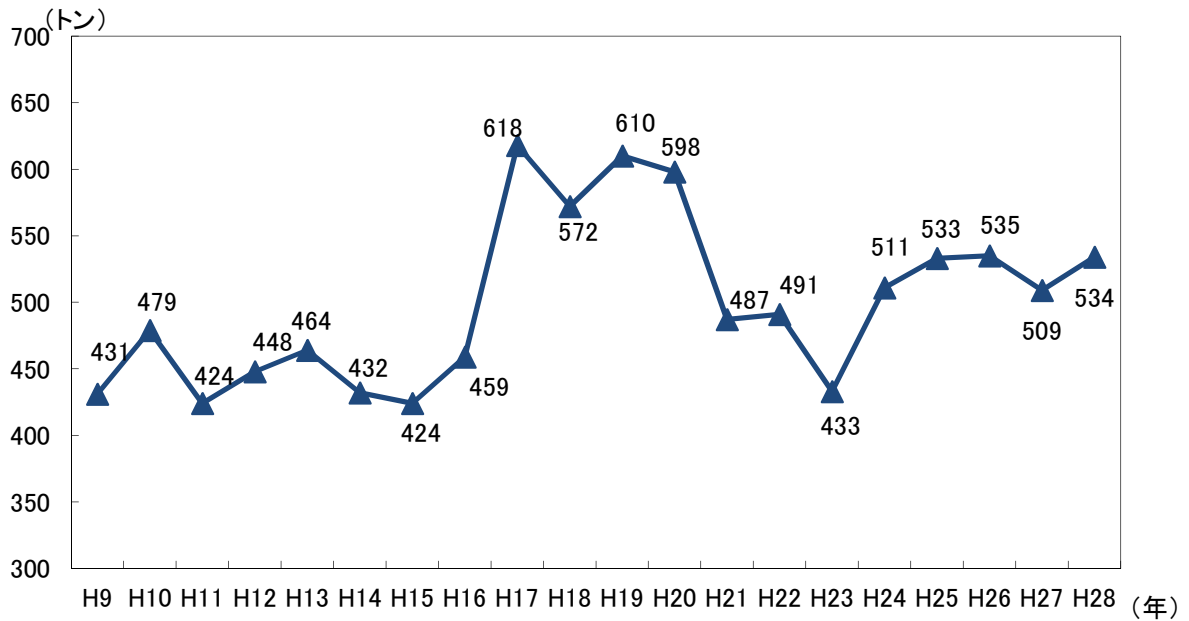
- 農用地等の利用集積等の促進（新規 2 件、更新 3 件、延べ 23 件）。【村】
- 農業用水の安定供給と漏水対策や安全対策を計画的に進めるため、かんがい施設整備を実施。【都】
- 農業被害を抑制するため、アフリカマイマイの防除やノヤギの駆除を実施。【都・村】
- 新規就農者を含む生産者へ試験研究の成果を還元するとともに、技術指導を実施。【都】
- 意欲的な新規就農者への経済的支援【村】
- 東京・竹芝船客ターミナルで開催した「小笠原 DAY」でミニトマト販売出展の実施などにより、小笠原ブランドの知名度向上を図った。【村】

※小笠原産直市場 <http://store.shopping.yahoo.co.jp/ogasawara-market/>

●漁獲量

平成 28 年実績	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 20～24 年平均)
(534 t)	510 t	504 t

【小笠原諸島における漁獲量の推移】



出典：管内概要（東京都）

【漁獲量の推移について】

- 漁獲量の約 40%をカジキ類が占め、次いでハマダイ、マグロで全体の約 70%を占めている。
- 平成 28 年はカジキ類及びハマダイが好調であった。
漁獲量の見込めるカジキ類や底魚類を中心に、その他多様な漁業で経営の安定化を図っている。

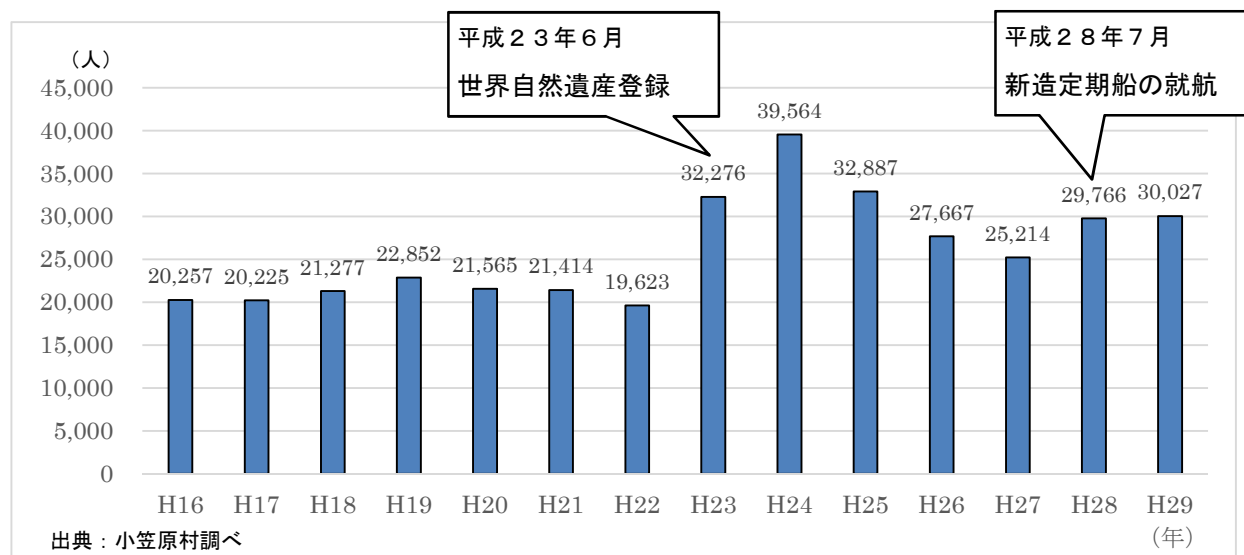
《平成 29 年度の取組状況》

- 漁船の安全な避難と円滑な漁業活動を確保するとともに、直背後に位置する漁港施設の津波による被害を軽減するため、防波堤を新設する。【都】
 <防波堤新設>
 二見漁港 14m
- 調査指導船「興洋」による海況の把握や試験操業、無線局の維持等により、漁業生産性の向上や操業の安全を通して水産業を振興。【都】

●年間入り込み客数

平成 29 年度実績（推定値）	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 21～25 年度平均)
30,027 人	32,900 人	29,153 人

【小笠原村への入り込み客数の推移】



(内訳)

(単位：人)

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29
おがさわら丸	27,664	24,443	22,772	21,681	24,991	24,870
観光客船 (寄港回数)	11,900 (32)	8,444 (24)	4,895 (13)	3,533 (8)	4,775 (13)	5,157 (13)
合計	39,564	32,887	27,667	25,214	29,766	30,027

出典：小笠原村調べ

【入り込み客数の推移について】

- これまで2万人前後で推移していた小笠原村への入り込み客数は、平成23年6月の世界自然遺産登録により、平成24年度には約4万人まで増加した。
- 平成29年度の小笠原村への入り込み客数（推定値）は、30,027人となっており、世界自然遺産登録効果により平成23年度から増加した観光客は、近年、落ち着きを見せているものの、平成28年度に増加に転じ、2年連続で増加した。これは、平成28年7月に新「おがさわら丸」が就航したことが要因の一つと考えられる。

《平成29年度の取組状況》

- 本土における観光PRイベント等への参加及び主催イベントを実施。【村】
- インバウンドも視野に入れた施策展開のため、「体験」をテーマとした小笠原旅行の魅力アピールする映像を制作し、イベントやWeb上で公開。【村】

- 新たな旅行者へのアプローチに向け、北海道及び東北地域でニーズ調査やルート分析、検証等を図り、世界自然遺産地域における継続的な観光振興に向けた調査を実施。

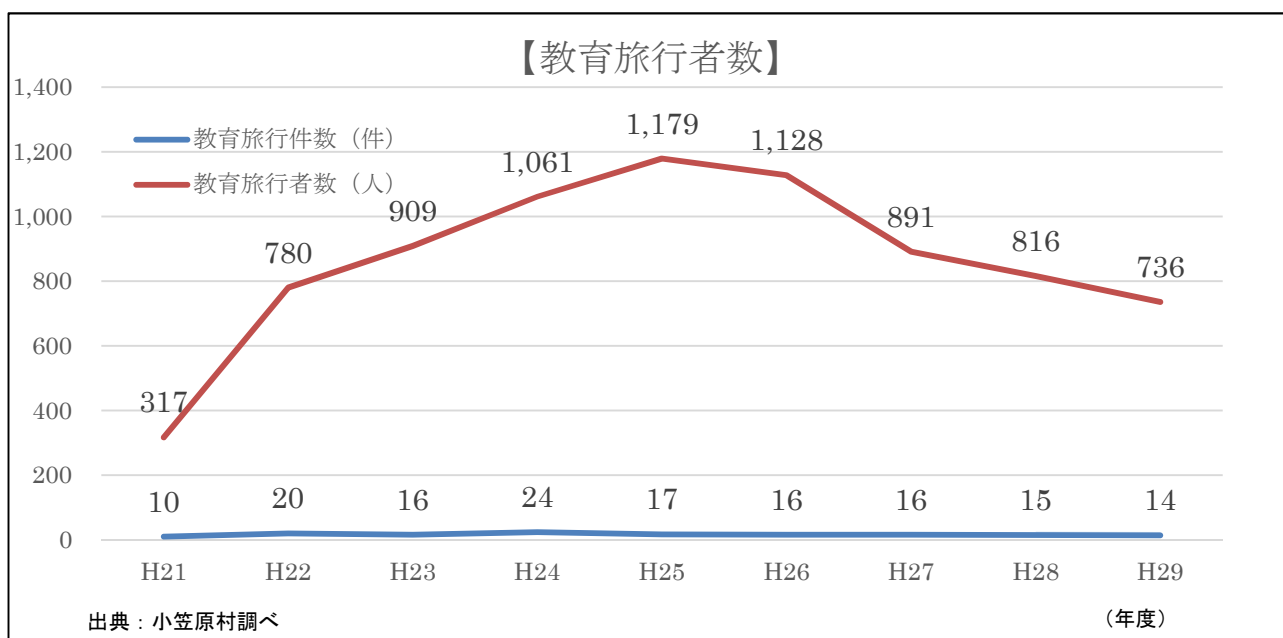
【都】

- 小笠原諸島の関係機関により、月に一度会議を開催して、最新情報の共有、観光施策の連携、各種課題等の検討を実施。 **【村】**
- 観光客の満足度向上を図るため、定期航路利用の来島者にアンケートを実施し、分析結果を観光諸団体に提供。 **【村】**

●教育旅行者数

平成 29 年度実績	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 25 年度実績)
14 件 736 人	20 件 1,200 人	17 件 1,179 人

【小笠原村への教育旅行者数の推移】



【教育旅行者数の推移について】

- 教育旅行者数は、近年下降気味であるものの、継続的な誘致活動の成果もあり、高い水準で推移している。

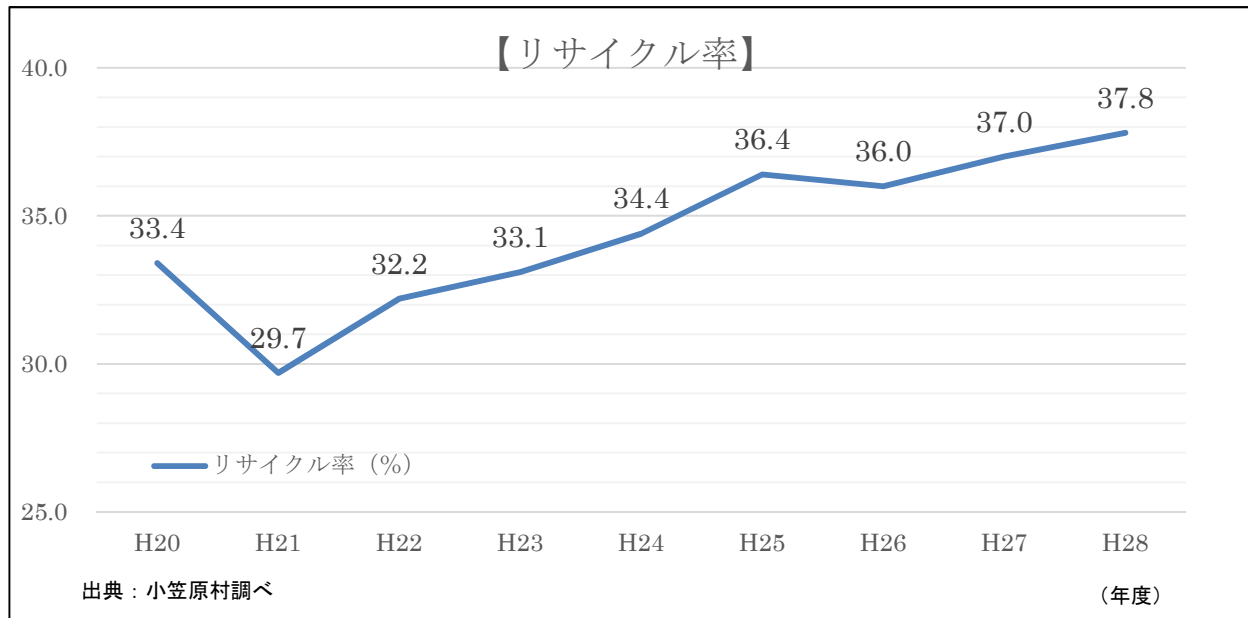
《平成 29 年度の実績状況》

- 小笠原村観光局と連携し、教育旅行の新規校を開拓し、過去に教育旅行を実施していた学校に対して再度の来島に向け、誘致活動を実施 **【村】**
- 教育旅行誘致に特化したパンフレット資料及び映像資料を活用し、誘致活動を実施。 **【村】**

●リサイクル率

平成 28 年度実績	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 24 年度実績)
(37.8%)	50%	34.4%

【小笠原村におけるリサイクル率の推移】



【リサイクル率の推移について】

- 紙類の分別促進等により、平成 28 年度においては 37.8%となっている。

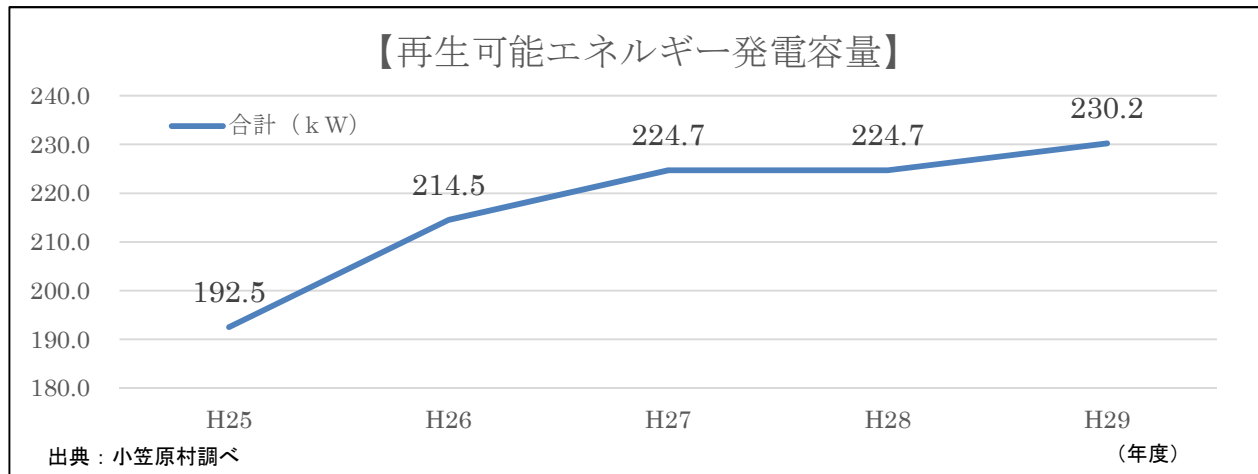
《平成 29 年度の取組状況》

- 住民の意識啓発や、ごみの減量化・資源の有効活用により、総資源化率を向上。【村】
- 焼却炉の年次精密点検・定期補修を実施し、予防保守による焼却施設の延命化。【村】

●再生可能エネルギー発電容量

平成 29 年度実績	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 25 年度末実績)
230.2kw	230kw	192.5kw

【小笠原村における再生可能エネルギー発電容量の推移】



【再生可能エネルギー発電容量の推移について】

- 平成 28 年度に竣工した環境省の小笠原世界遺産センターに太陽光発電設備が設置（発電容量：5.5kw）されたことにより、平成 29 年度においては 230.2kw となっている。

(参考) 小笠原村の太陽光発電設備設置箇所

太陽光発電設置場所	発電容量(kw)
小笠原村診療所	50.0
地域福祉センター	10.0
小笠原村情報センター	5.5
都立小笠原高校	20.0
奥村交流センター	20.0
母島小中学校	50.0
母島長浜トンネル (独立)	5.0
母島ソーラーポンプ場 (独立)	32.0
扇浦新浄水場	22.0
扇浦交流センター	10.2
小笠原世界遺産センター	5.5
合計 (kW)	230.2

《平成 29 年度の取組状況》

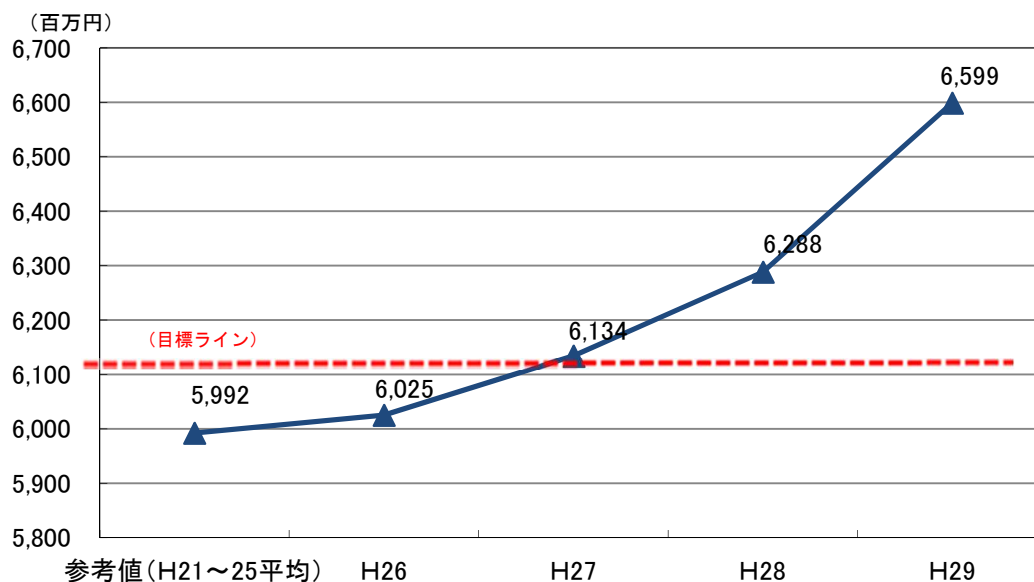
- 導入済みの太陽光発電設備の運用状況や村有施設における省エネの実施状況調査を実施。【村】

●総所得金額

平成 29 年度実績	目標(平成 30 年度)	参考値(平成 21～25 年度平均)
110.1	102	59 億 9,200 万円

※平成 21～25 年度までの平均総所得金額を 100 とした場合の指数

【小笠原村における総所得金額の推移】



出典：東京都調べ

【総所得金額の推移について】

- 平成 27 年度以降は、目標の総所得金額を上回っている状況にある。